

## (1) 航空レーザ測量と正確な森林情報の整備

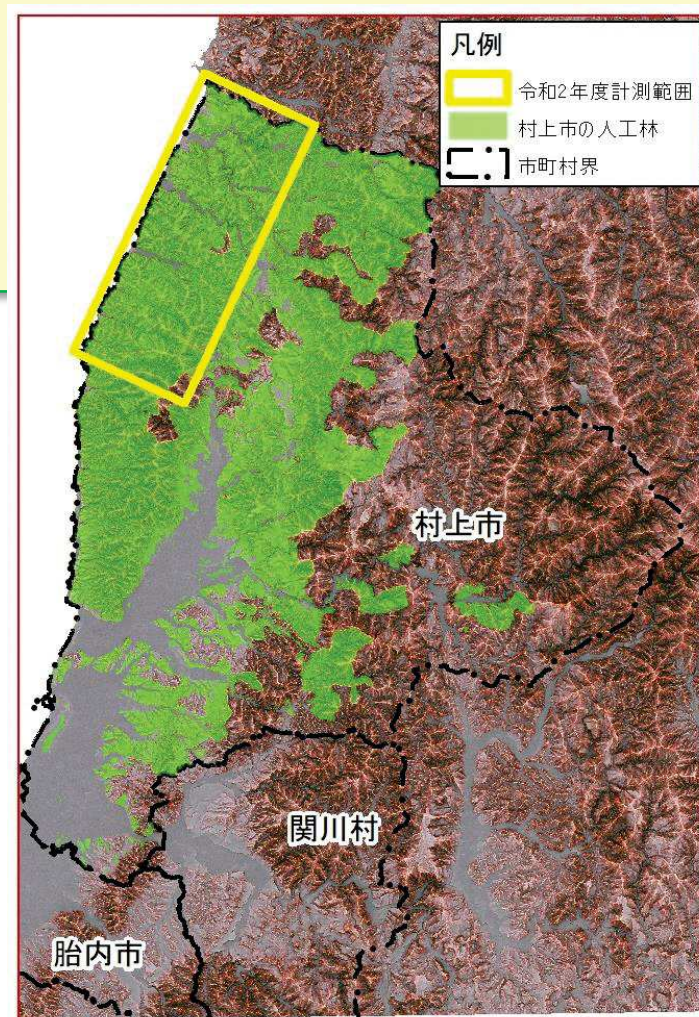
### <現状と課題> 森林情報の不足

- ・森林簿や森林計画図は現地の実態と合わない部分があるなど資源情報や地形情報の精度が低い。
- ・森林経営管理制度の運用、森林の現況調査等に、多大な労力と時間を要している。

### <具体的な取り組み>

- ① 航空レーザ測量による森林情報の高度化
- ② 精度の高い森林情報の共有のしくみの検討（森林クラウド等）

<取組実施者> 新潟県、村上市



### ① 航空レーザ測量による森林情報の高度化

- ・新潟県及び18市町を構成員とする新潟県スマート林業推進協議会が設立され、本年度より村上市等を対象に航空レーザ計測を実施中。
- ・次年度以降も順次計測を実施し、村上市内の民有林全域での森林情報の高度化をすすめます。

### <現況>

民有林・約150km<sup>2</sup>の航空レーザ森林情報整備（令和2年度）



### <計画目標>

村上市内の民有林全域における航空レーザ解析森林情報の整備（令和5年度まで）

# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

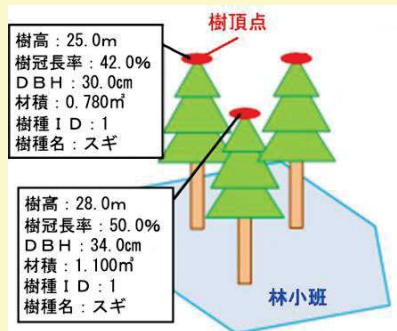
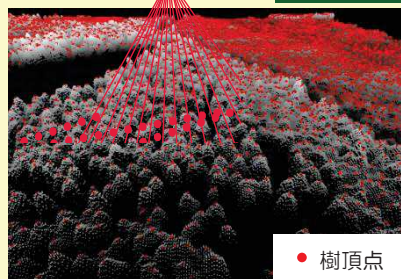
## ② 精度の高い森林情報の共有のしくみの検討（森林クラウド等）

- ・航空レーザ測量による正確な森林資源データを村上市全域で整備し、村上市や川上～川下までの事業者、森林所有者等が利活用可能な森林情報の共有のしくみを検討します。（クラウドシステム※等による情報共有のしくみを検討）

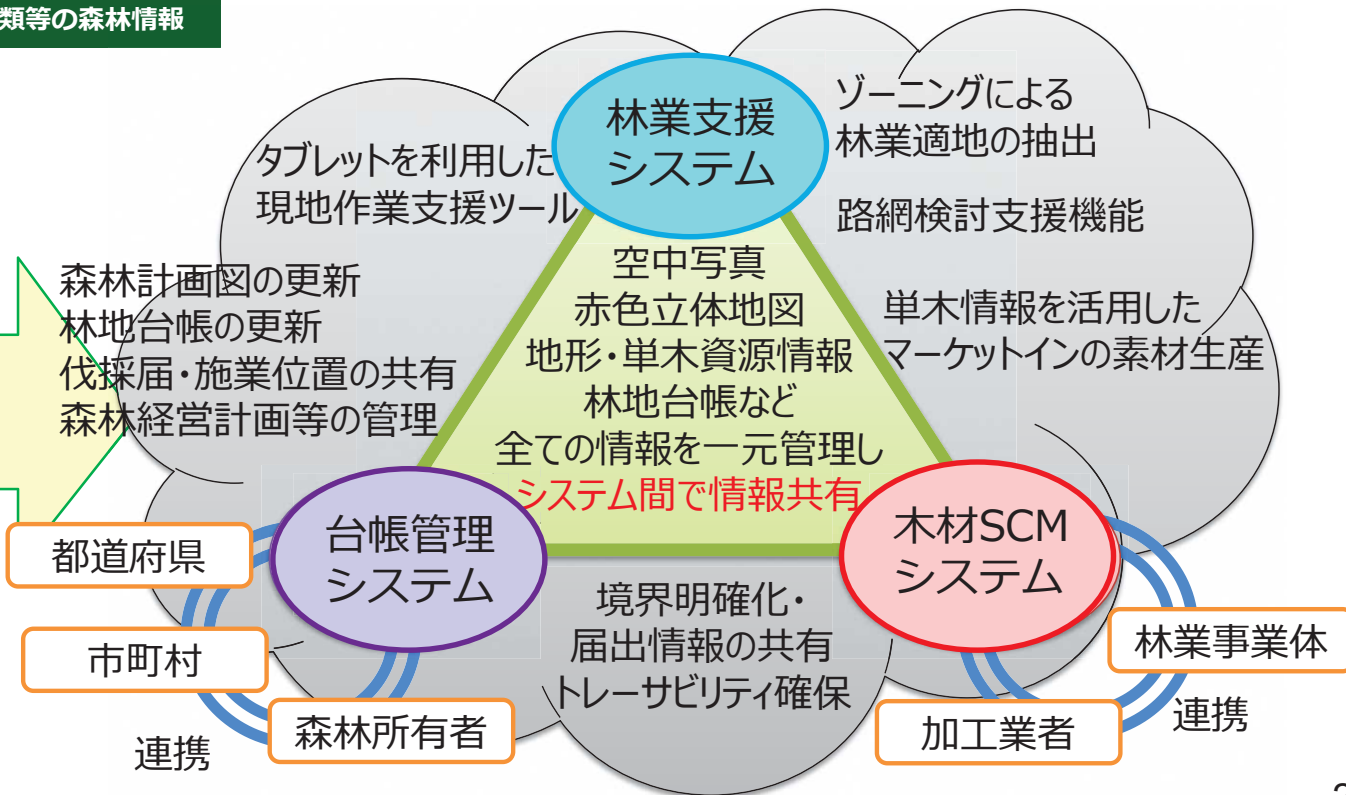
※これまで各ユーザ（県、市、森林組合等）で管理していた森林情報を、クラウド上（ネットワーク経由）で一元的に管理するシステム。また、GISの機能を持ち、属性情報や地図情報を管理する機能を持つ。



正確な森林資源データや地形図  
航空写真、台帳類等の森林情報



針葉樹人工林の森林資源情報  
1本1本の立木情報を  
データベース化。



# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## (2) 森林の実情に即した計画的な森林整備

### <現状と課題>

- ・木材価格の低迷等による林業の衰退、林業従事者の高齢化等による担い手不足が進行している。
- ・戦後の拡大造林で人工林としての成立が困難な場所にもスギ林が植林され、手入れが十分に行き届いていない。
- ・市内の私有林約53,210ha（私有人工林約18,500ha）全域の森林整備は難しく、森林の公益的機能が低下する懸念。
- ・イノシシやクマ、サルといった野生動物による田畑、森林への被害、獣害の増加傾向にある。これらの獣害の増加は、集落周辺の森林の手入れが行き届いていないことも原因の1つとして考えられている。

### <具体的な取り組み>

- ① 重点的な森林整備
- ② 公的関与が必要な森林における森林整備
- ③ 獣害対策を考慮した森林整備

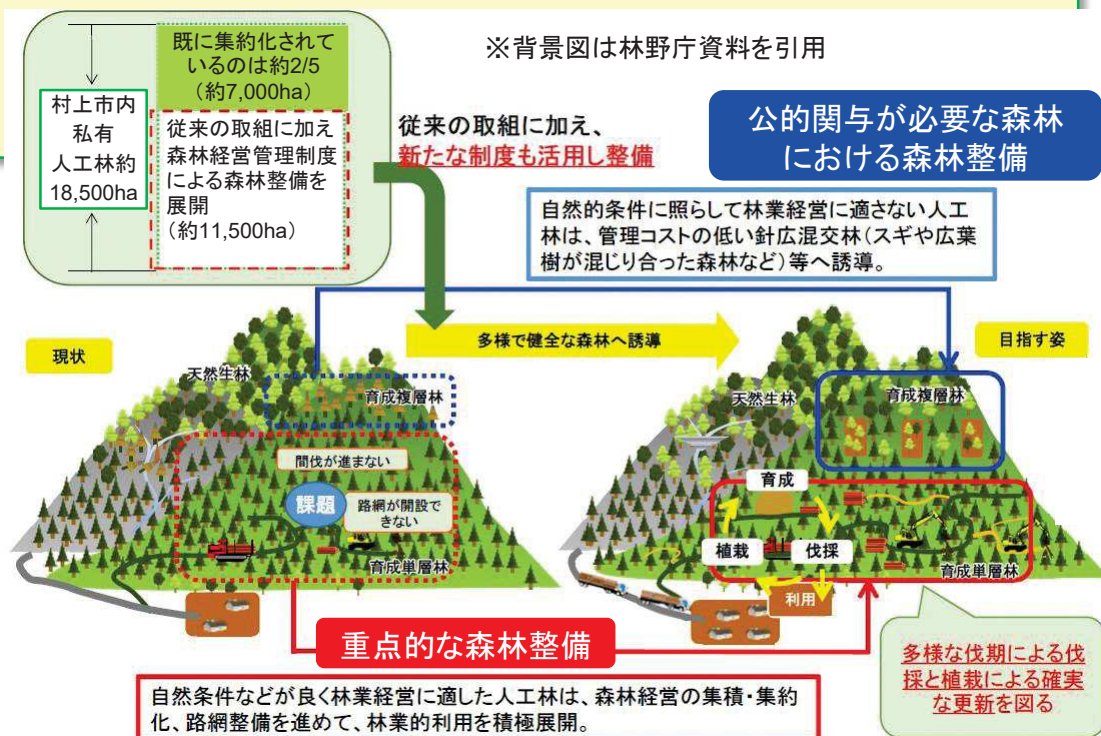
<取組実施者> 林野庁、村上市、林業事業者

### ① 重点的な森林整備

- ・自然条件などが良く林業経営に適した人工林は、森林経営の集積・集約化、路網整備を進めて、林業的利用を積極的に展開します。
- ・本年度の航空レーザ計測範囲でモデル地域を設定し、解析データを活用した重点的な森林整備を実施します。

### <計画目標>

モデル地域における重点整備を2箇所を実施（令和7年まで）



「重点的な森林整備」と「公的関与が必要な森林における森林整備」

# 1.1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## ② 公的関与が必要な森林における森林整備

- ・ 自然的条件に照らして林業経営に適さない人工林は、管理コストの低い針広混交林（スギや広葉樹が混じり合った森林など）等へ誘導します。
- ・ 「森林整備と財源のあり方検討委員会」（新潟県）で示された「公的関与が必要な森林の対象範囲と判断基準の考え方」に基づき、公的な関与が必要な森林について整備を推進していく計画とします。
- ・ 国有林に隣接・介在する民有林で国有林の公益的機能が十分に発揮できない森林は、民有林も含めて一体的に施業を行う「公益的機能維持増進協定」も活用して森林整備を推進します。

表 公的関与が必要な森林の対象範囲と判断基準の例

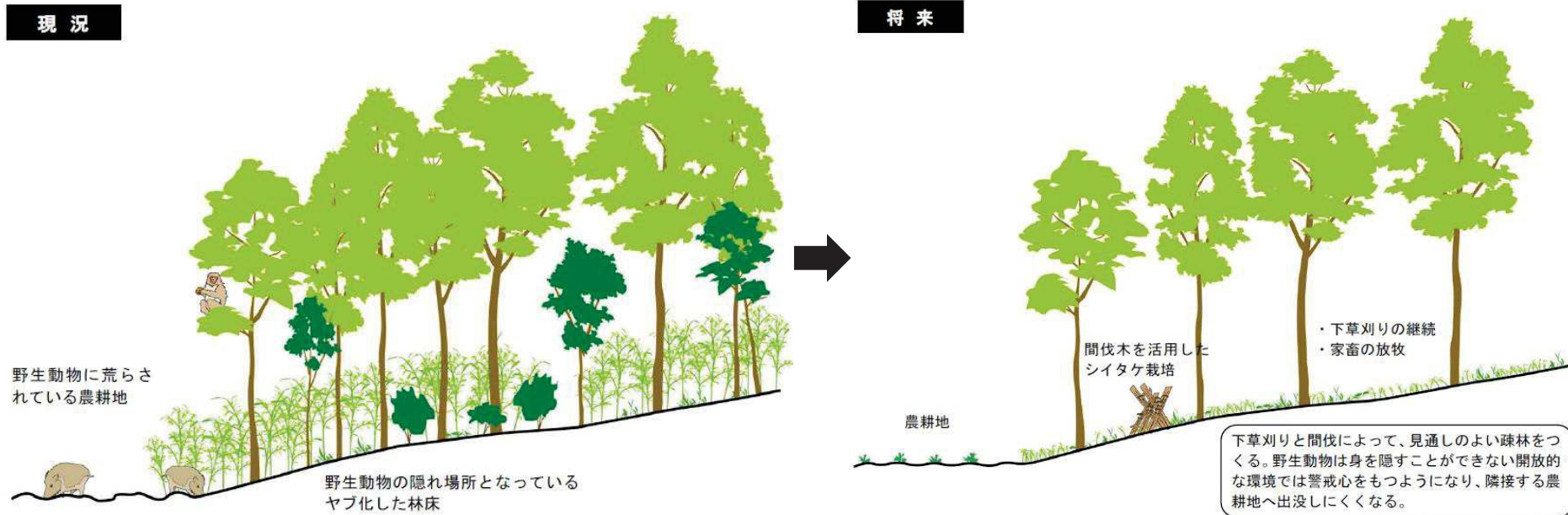
区分	定義	基準
ア 条件不利人工林 （一般私有林）	林業経営に適さない人工林 （一般私有林）	傾斜25度以上 林地生産力5m <sup>3</sup> /ha・年未満 基幹路網から300m以上
イ 広葉樹林 （里山、ブナ林等）	放置された旧薪炭林等	過密度（収量比数） Ry0.8以上
ウ 集落管理人工林	生産森林組合、 記名共有林、財産区有林	人工林
エ 条件不利人工林 （公有林等）	林業経営に適さない人工林 （県、市町村営林（公有林） 公社分収林（私有林））	傾斜25度以上 林地生産力5m <sup>3</sup> /ha・年未満 基幹路網から300m以上

※「森林整備と財源のあり方検討委員会（新潟県）」において提言された4つの森林区分の定義と基準

# 1.1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## ③ 獣害対策を考慮した森林整備

- ・近年、村上市での増加傾向にあるイノシシやクマ等による獣害対策としての緩衝帯の整備が有効な手段として知られています。
- ・これまでに獣害被害が確認されたエリアの周辺や集落周辺の里山を対象として、獣害対策も考慮した森林整備（緩衝帯の整備）を計画的に実施します。



# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## (3) ICTを活用したスマート林業の実践

### <現状と課題>

- ・森林地形図が古く、現地の地形にあっていない場合がある。
- ・森林境界調査は現地立会が基本となっており、森林所有者との調整に大きな労力を要している。
- ・施業の現場では高性能林業機械の導入や効率的な施業、安全性の向上が求められている。
- ・木材価格に占める生産・流通コストの割合が高い。
- ・林業は危険な仕事、きつい仕事、古い仕事というイメージがある。

### <具体的な取り組み>

- ① 詳細な地形データ等を活用（林地境界の明確化や森林整備等への活用）
- ② ICTを活用した生産性や安全性の向上、低コスト化のための取り組み

<取組実施者> 村上市、林業事業体

## ① 詳細な地形データの活用

### (境界明確化や森林整備等への展開)

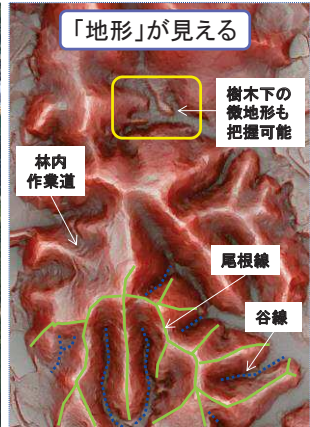
- ・高精度な地形図やレーザ林相図といった現状の地形図や空中写真よりも地形や傾斜、樹種などが分かりやすい地図等を用いて、効率的に境界明確や森林整備計画等に活用します。

## ② ICTを活用した生産性の向上、低コスト化のための取り組み林業のイメージ改善

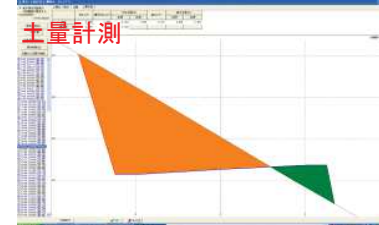
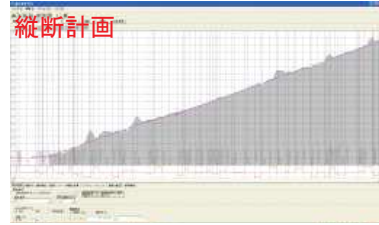
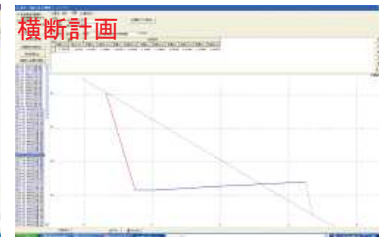
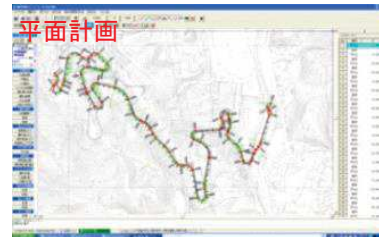
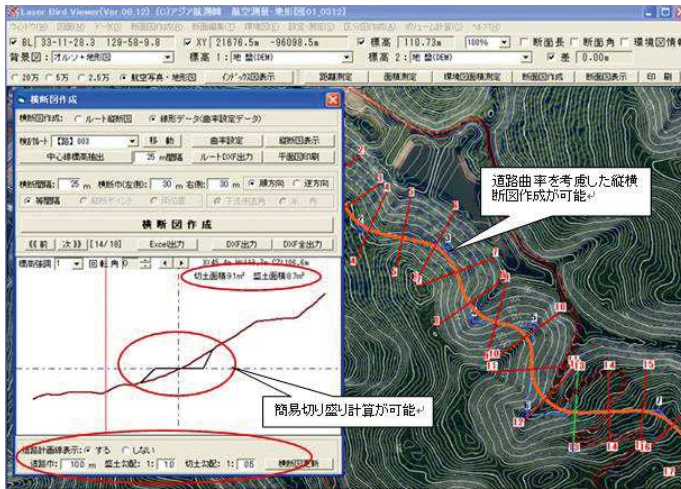
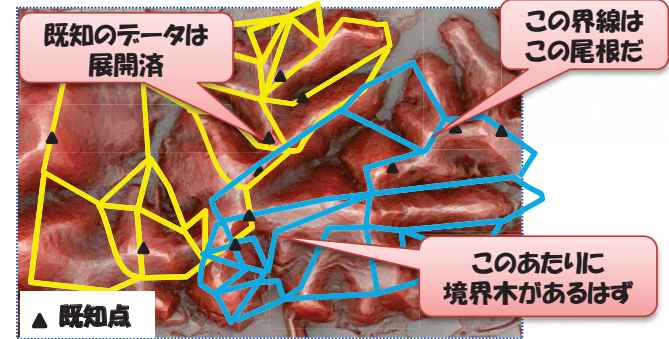
- ・ICT技術を用いたスマート林業の導入を推進し、生産性の向上、低コスト化を図ります。
- ・「ICTを利用した効率的な伐採計画の策定や施業の進捗管理」、「最新情報端末を用いた効率的な施業」、「機械の遠隔操作、自動化による生産性と安全性の向上」などについて、最新の知見を収集するとともに実現に向けた研究を行います。

# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## ① 詳細な地形データの活用 (境界明確化や森林整備等への展開)

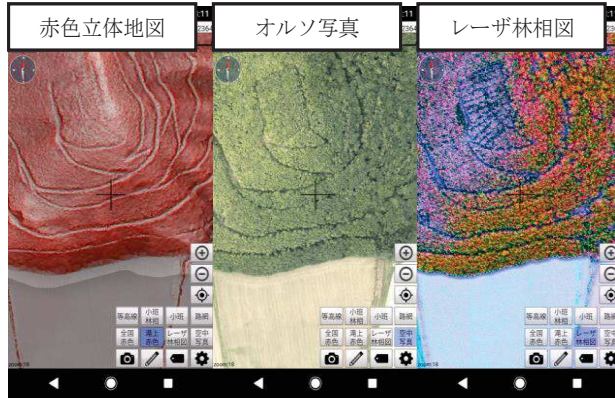


### 赤色立体地図を用いた公園の概略配置作業



# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## ②ICTを活用した生産性の向上、低コスト化のための取り組み林業のイメージ改善



・荷掛け作業は人力

**集材作業員**

- ・集材機運転手
- ・荷掛け手



2人



・カメラで認識、荷掛け作業を自動化

**集材作業員**

- ・なし



0人



・運材手による搬出、荷下ろし

**搬出作業員**

- ・フォワーダ  
運材手



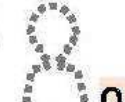
1人



・誘導電線で自動走行、自動荷下ろし ※林野庁資料を引用

**搬出作業員**

- ・なし



0人



# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## (4) 施業効率化のための路網整備と適切な維持管理

### <現状と課題>

- ・路網が不足し、森林の手入れが十分に行き届いていない。
- ・既存の路網は、幅員が狭いものが多く、最新の林業機械や大型車が通行できない。
- ・林道の維持管理、補修がされておらず、現状で利用できないものがある。

### <具体的な取り組み>

- ① 路網整備の推進
- ② 既設路網の適切な維持管理と改良

<取組実施者> 林野庁、新潟県、村上市、林業事業体

路網整備の目標とする水準(林野庁資料を引用)

区分	作業システム	路網密度
緩傾斜地 (0° ~15° )	車両系作業システム	100m/ha以上
中傾斜地 (15° ~30° )	車両系作業システム	75m/ha以上
	架線系作業システム	25m/ha以上
急傾斜地 (30° ~35° )	車両系作業システム	60m/ha以上
	架線系作業システム	15m/ha以上
急峻地 (35° ~)	架線系作業システム	5m/ha以上

### ①路網整備計画の推進

- ・村上市の林道（林道、林業専用道、軽車道、公道）と作業路及び作業道を合計した路網密度は19.2m/ha※です。60m/haを目標に路網整備を推進していきます。

※新潟県資料による

### ②既設路網の適切な維持管理と改良

- ・維持管理がされず使えない林道、推進する効率的な施業に利用できない林道は改良していきます。また、林道を社会インフラとして捉え、維持管理していきます。



基幹林道 大毎北中線 ※写真は新潟県HPより引用

# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## (5) 林業従事者の技能向上

### <現状と課題>

- ・若手の林業従事者が少なく、技術の伝承、世代交代ができていない
- ・林業技術のレベルアップが必要

### <具体的な取り組み>

- ① 次世代林業を担う有資格者の拡充
- ② 現場技能者の育成

<取組実施者> 新潟県、村上市、林業事業者

### ①次世代を担う有資格者の拡充

資格の種類	現況 (令和2年)	10年後 (令和12年)
森林総合監理士 (フォレスタ)	3人	3人
森林施業プランナー	9人	18人
森林経営プランナー	R 2 創設	9人

※村上市における有資格者数

### ②現場技能者の育成

- ・技能者の育成や世代交換の取り組みとして、技能に関する研修会、安全講習会や安全に関する対策等、現場技能者の育成に関する取り組みを県と連携しながら推進していきます。

### 現場技能者キャリアアップ対策

フォレストマネージャー

[ 就業10年以上 ]

フォレストリーダー

[ 就業5年以上 ]

フォレストワーカー

林野庁資料より引用

現場を管理する班長クラス等の責任者を育成

技能検定への林業の追加に向け、技能評価試験の試行的な運用を支援

「緑の人づくり」総合支援対策により実施



フォレストワーカーフォローアップ研修(チェーンソー伐倒研修)  
(NiigataForestryMagazine(vol.8)より引用)

# 1 ICT技術等を活用した効率的かつ魅力ある林業の実践

## (6) 効率的な造林作業と苗木生産の取り組み

### <現状と課題>

- ・皆伐後の再造林に際し、地拵え・植栽・下刈りの一連の作業について労力の軽減や低コスト化が課題となっている。
- ・無花粉スギやコンテナ苗等の優良な苗木を確保すること、苗木生産者を育成することが課題となっている。

### <具体的な取り組み>

- ① 造林作業の省力化・効率化の取り組み
- ② 優良な苗木の開発と苗木生産者の育成

<取組実施者> 新潟県、村上市、林業事業者等



コンテナ苗の植林試験(新潟県森林研究所HPより引用)

### ①造林作業の省力化・効率化の取り組み

- ・低コスト再造林の手法の一つとして「コンテナ苗」を活用した「伐採と造林の一貫作業システム」等の導入を目指し、技術開発の取り組みを引き続き行うとともに、開発された技術について実際の林業の現場への普及と適用をすすめます。

### ②優良な苗木の開発と苗木生産者の育成

- ・優良な苗木の開発と村上管内への再造林に際しての導入を検討します。
- ・無花粉スギやコンテナ苗を生産できる苗木生産者の育成も県と連携しながらすすめていきます。



無花粉スギの人工交配  
(新潟県森林研究所HPより引用)

## 2 村上市産材の利用促進

### (1) 川上から川下までを通じた村上市産材のサプライチェーンの構築

#### <現状と課題>

- ・村上市産材がほしい時に手に入らない。
- ・山から十分な木材が出てくるのか、どれだけの材が集まるか等の情報が十分でない。
- ・木材を生産する川上・川中と木材の需要側である川下との連携が不可欠であるが、サプライチェーンの構築に関係する各主体による協議の場がない。

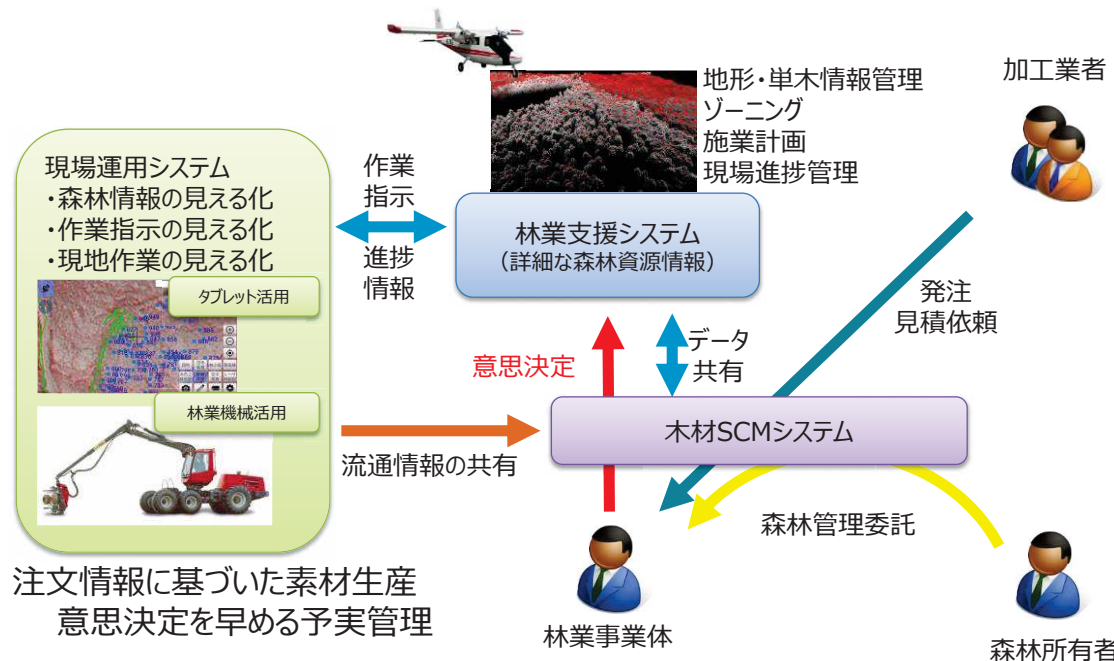
#### <具体的な取り組み>

- ・村上市産材の供給体制の構築に向けた取り組みの推進

<取組実施者> 村上市、林業事業体、製材業者、工務店

### ① 村上市産材の供給体制の構築に向けた取組の推進

- ・川上～川中の事業体が計画的に森林資源を利活用できる生産管理システムを目指します。
- ・実現のためには川上～川下の各主体が連携し、いかに情報を共有できるかが鍵となります。
- ・協議会の開催や実証試験等を実施しながら、村上市産材の最適なサプライチェーン構築の実現に向けた取り組みをすすめていきます。



## 2 村上市産材の利用促進

### (2) 村上市産材の高付加価値やPRの取り組み

#### <現状と課題>

- ・村上市産材の価値や特徴が十分理解されておらず、地産地消への意識低下もあって地域材の利用が少ない。
- ・村上市産材の良さが十分にPRされていない。

#### <具体的な取り組み>

- ① 村上市産材の価値の研究
- ② 村上市産材のPR

<取組実施者> 村上市、林業事業者、製材業者、工務店等

### ①村上市産材の価値の研究

- ・「木材の地産地消」という考え方が注目されています。地域の木材を使って建物等を建てる  
と様々な効果があることが知られています。
- ・地域の木材の利用を促進していくためには、村上市産材の優れた点、村上市産材の適材適所  
の利用等について研究をすすめて、多様な場面での地域材の利用を促進していく必要があります。

### ②村上市産材のPR

- ・木材の地産地消による効果のほか、村上市産材の価値、市産材を活用した優れた製品に関する  
広報活動を積極的に行うこととし、その際の補助制度についても新たに創設します。

## 2 村上市産材の利用促進

### (3) 市産材を使った魅力ある施設づくりや新商品の開発

#### <現状と課題>

- ・ 木材を多く使用する住宅着工数が縮小傾向にあり、木材利用に対する需要を喚起することが必要。
- ・ 消費者ニーズの変化への対応した新商品開発等によって新たな木材需要を開拓することが必要

#### <具体的な取り組み>

- ① 新規公共事業における市産材利用の推進
- ② 既存公共構造物の木質化の推進
- ③ 木材を用いた製品取り扱いの推進及び新商品の研究

<取組実施者> 村上市、林業事業体、製材業者、工務店



村上スケートパーク

#### ① 新規公共構造物建築時の木材使用の検討

- ・ 村上市内で建築される公共事業において、様々なところで木材を用いた構造物となるように計画・設計時からの市産材の利活用を検討します。



村上市立さんぼく小学校(新潟県HPより引用)

#### ② 既存公共構造物の木質化の推進

- ・ 様々な場面で市産材の利用促進を図るために、外構や内装、椅子やテーブルといった付属品等も木質化し、市民を始めとした施設利用者が木のぬくもりを目で、肌で感じることでできる空間の創出を目指します。



外構の木質化(町屋再生プロジェクトHPより引用)

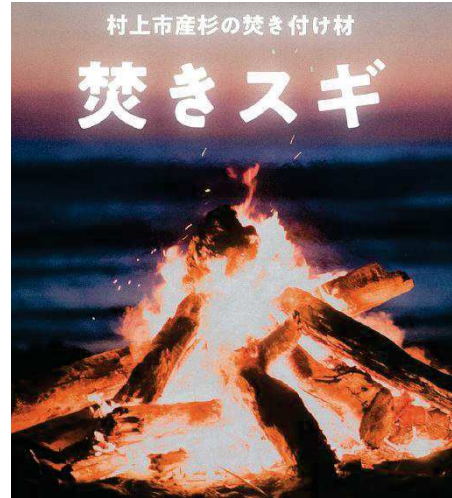
## 2 村上市産材の利用促進

### ③木材を用いた製本の取り扱いの推進及び新商品の研究

- ・森林や木材の持つ効果を広め、森林、林業に関心を持ってもらうことを目的として、木材を用いた商品の利用を推進します。また、木材を用いた新しい商品について研究を進め、様々な場面での木材の利用促進を図ります。



むすび箸(大川屋製材所パンフレットから引用)



燻きスギ(大川屋製材所パンフレットから引用)



クロモジから抽出したエッセンシャルオイル  
(株式会社サクラ・ラボラトリーHPから引用)



檜から抽出したアロマウォーター  
(株式会社サクラ・ラボラトリーHPから引用)

## 2 村上市産材の利用促進

### (4) 市産材利用に対する補助

#### <現状と課題>

- ・木材を多く使用する住宅着工数が縮小傾向にあり、木材利用に対する需要を喚起することが必要。

#### <具体的な取り組み>

- ① 村上市産材利用住宅等建築奨励事業補助金
- ② 工務店向けの補助の検討

<取組実施者> 新潟県、村上市

### ① 村上市産材利用住宅等建築奨励事業補助金

- ・毎年定員数に達するほどの需要があり、市産材の利用に貢献していると考えられます。

### ② 工務店向けの補助の検討

- ・新潟県では県産材を一定数使用した工務店や大工に補助を実施しています。
- ・村上市ではこれを参考に村上市独自の取り組みとして、市産材を一定数使用した工務店、大工に補助を行うことを検討します。
- ・これらの取り組みについて工法や新聞にて表彰を行い、更なる利用促進を図ることも検討します。

## 村上市産材で家づくり

### 村上市産材利用住宅等建築奨励事業

村上市内で生産された木材(スギ・ヒノキ)を使用して市内に木造建築物を建築(新築・増築・改築)される方に補助金を交付します。



補助金額

計算例①材購入費 1,375,500円 補助金額 275,000円(千円未満切捨て)  
計算例②材購入費 4,220,000円 補助金額 300,000円(最大30万円)

○村上市産スギ・ヒノキ材購入経費の20%以内。1棟最大で **30万円**。

新潟県 令和2年度 新潟県産材の家づくり支援事業 工務店向け

### 工務店・大工の皆様へ

住宅の新築・リフォームでの県産材の利用を支援します。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、  
県産材の増加要件を設けず、県産材の利用を広く支援します。

県産材 1mあたりの支援額 **4,800円**

#### 1. 事業名称

新潟県産材の家づくり支援事業(工務店向け)

#### 2. 申請者条件

県内に事業所を有する大工・工務店等

#### 3. 補助基準

県産材利用量(※) × 4,800円/m<sup>3</sup>

※ 対象は、県産材を3m<sup>3</sup>以上使用する新築、平均1m<sup>3</sup>以上使用するリフォームです。  
全体の利用量で申請可能です。

※ 上限は50m<sup>3</sup>/棟。(但し、共同住宅の上限は50m<sup>3</sup>/戸であり、1棟当たりの上限はありません。)

今年度は、県産材利用量の増加要件がありません。  
申請者は積極的に県産材の利用のPRをしてください。

新潟県HPより引用



## 2 村上市産材の利用促進

### (5) 薪や木質ペレット等、市産材のエネルギー利用

#### <現状と課題>

- ・脱炭素などの課題に対応するためには木質バイオマスエネルギーの活用が不可欠
- ・木材はA材～D材まで捨てるところがないが、その有効活用が十分にできていない。

#### <具体的な取り組み>

- ① 木質バイオマスエネルギー利用のための補助
- ② 地域内エコシステム構築の検討

<取組実施者> 林野庁、新潟県、村上市、林業事業体、製材業者、工務店等

・地球温暖化等の環境問題に関する取り組みから、木質バイオマスエネルギーの利用が注目を集めています。

・多様な木材の利用を推進するため、木材のカスケード利用を基本として木質バイオマスエネルギーの利用に取り組むこととします。



## 2 村上市産材の利用促進

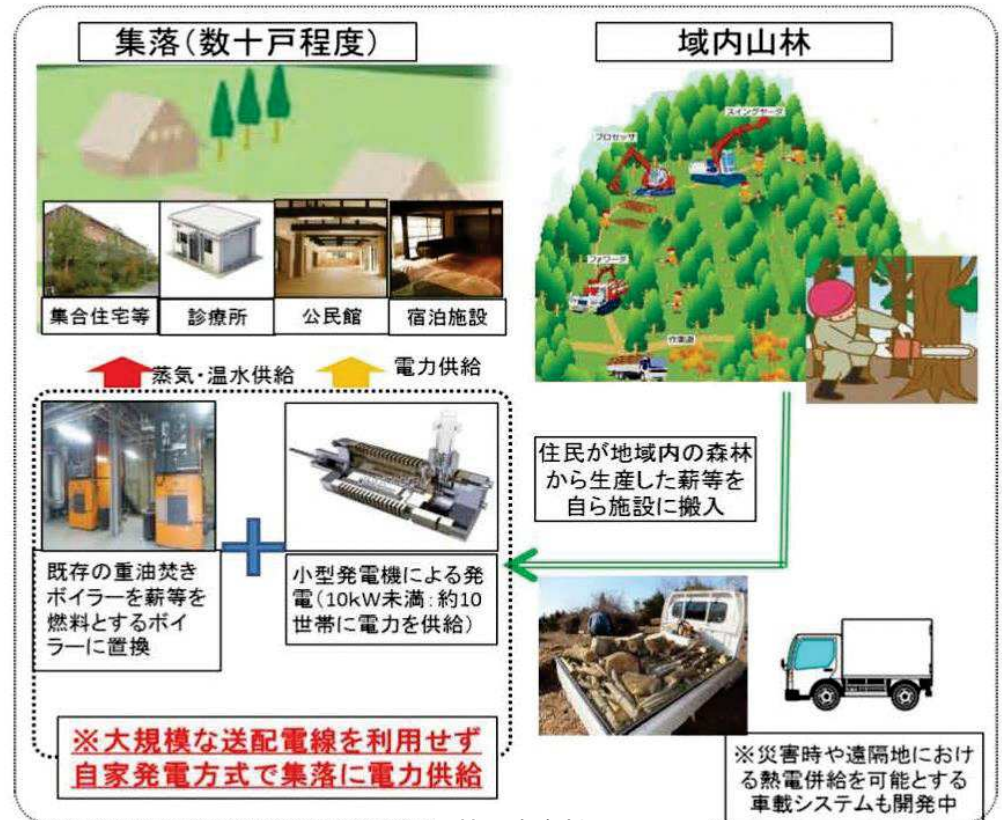
### ①木質バイオマスエネルギー利用のための補助

- 木質バイオマスストーブを設置する方を対象に予算の範囲内で設置費用の一部を補助しています。



### ②地域内エコシステム構築の検討

- 豊富な森林資源を木質バイオマスとして有効利用することで、森林の保全や再生、地球温暖化対策、素材生産の規模拡大や林地残材搬出等による雇用創出等の地域活性化に寄与できると考えられます。
- 温泉施設、宿泊施設、農業施設、医療・福祉施設等に地域内エコシステムの導入（薪ボイラーや小型（10kW未満）発電機の導入）の可能性を検討します。



林野庁資料より引用

## 2 村上市産材の利用促進

### (6)広葉樹資源の利活用の推進、研究

#### <現状と課題>

- ・昔はコナラ林を薪炭林として利用していたが、現在はあまり利用されていない。
- ・漆を活用した「村上木彫堆朱」、シナノキ等を活用した「羽越しな布」が伝統的工芸品として村上市の特産品となっており、その匠の技を将来にわたって伝承していく必要がある。
- ・戦後の拡大造林で本来広葉樹が生育する箇所にスギが植林されている。
- ・里山の手入れがされなくなったほか、奥山もスギ林となったためか、獣害が増加傾向にある。

#### <具体的な取り組み>

- ① 広葉樹資源の利活用の推進・研究
- ② 漆栽培事業補助金
- ② 多樹種で構成される奥山の広葉樹林の保全と再生

<取組実施者> 村上市、製材業者、工務店



「村上木彫堆朱」越後村上特産品MAP  
(越後村上物産会事務局)より引用



「羽越しな布」越後村上特産品MAP(越後村上物産会事務局)より引用

### ①広葉樹資源の利活用の推進・研究

- ・コナラ林を以前のような薪炭林として活用できるように整備を進めるほか、更新が難しい里山については必要に応じて植林を行い、里山の再生を推進します。
- ・「羽越しな布」や「村上木彫堆朱」に代表される歴史ある広葉樹を利用した伝統的工芸品の伝承のための取り組みやPR、シナノキ林の育成、広葉樹を使用した家具や小物作り等のあらたな利活用についても関係者・関係機関と一体となって取り組むこととします。

### ②漆栽培事業補助金の継続

- ・現在村上市で取り組んでいる漆栽培事業補助金を継続し、「村上木彫堆朱」の文化を継承しつつ、その利活用を促進します。



# 3 村上の森や木のことを世代を超えて伝えていく取り組みの実践

## (1)総合学習の機会を活用した木育・森林環境教育活動

### <現状と課題>

- ・山のことや木のことを親や祖父・祖母から教わることがなくなり、若い世代の木離れがすすんでおり、村上が林業地であることも知らない市民もいる。
- ・村上市民に村上の森林の現状や日々の暮らしと森林とのかかわりに関わりを知ってもらい、「地元の木を利用する」という意識の普及・啓発が必要。

### <具体的な取り組み>

- ① 総合学習の機会を活用した木育・森林環境教育活動
- ② 木育インストラクターの養成
- ③ 村上の森や木を活用した体験型プログラムの実践
- ④ 村上の家づくりの勉強会の企画・開催
- ⑤ 村上の木に触れ合うことのできる学習設備の整備
- ⑥ 市民向けの講演会やシンポジウム等を活用した普及啓発

<取組実施者> 村上市、林業事業体、製材業者、工務店、その他関連団体



## ①総合学習の機会を活用した木育・森林環境教育活動

- ・木材の地産地消、地元の木を利用したいといった意識を醸成するためには、村上の森林の現状や日々の暮らしと森林とのかかわりを知ってもらうなどの普及・啓発の取り組みが必要です。
- ・既存団体と協力しながら、地域の小中学生を対象とし、総合学習教育の時間を利用し、学校教育の一環として木育の実践を推進します。





# 3 村上の森や木のことを世代を超えて伝えていく取り組みの実践

## ③村上の森や木を活用した体験型プログラムの実践

### 「村上の資源を活用した森林体験ツアーの企画・開催」

・魅力ある森林体験ツアーを提供することが村上の森林や林業に関する理解の促進や木材利用の活性化にもつながっていくことから、ガイドが同行して直接来訪者へ魅力を伝える、村上の特徴を活かした森林体験ツアーを開発します。

### 「森林施業や製材工場の見学会の実施」

・森から木材や木製品が出来るまでの流れを実際に見てもらうことで、森林・林業に対する理解がより一層深まると考えられます。

・これまでも小中学生を対象に見学会等を行っていますが、これを継続し、より多くの市民に理解を得られるようにすることを目指します。

## ■事例紹介

### 加子母森林組合(岐阜県中津川市)

#### 地域資源等の現状

- ・「東濃ひのき」と呼ばれる優良材の産地。
- ・当該地域では、散発的に「林業体験」、「農作物の収穫体験」、「歌舞伎小屋を活かした観光」等のツアーが実施されてきた。

#### 農泊推進対策による支援

「加子母森林組合」が中心となり、市役所、観光協会、旅行会社、農林業関係団体の協力を得て、体験プログラムの商品化や宿泊施設の整備等を行い、プロモーションの強化によってインバウンドを含む観光客の増加を目指す。

#### 体験プログラム等の開発と磨き上げ



マイ箸づくり



林業体験



農業収穫体験



食文化体験



芝居小屋

#### 宿泊施設の整備(既存施設の改修等)



キャンプ場、コテージの通年利用



古民家改修

プロモーション

#### ターゲット

外国人旅行者  
(主に中国人)

大都市圏(関東、中部、関西)の旅行者

#### <ソフト事業>

- ・地域内で合意形成を目的にフォーラム開催
- ・外国人旅行者のニーズ把握調査
- ・農泊ビジネス成功事例調査
- ・マーケティングに基づく体験プログラムの開発
- ・加子母地域の魅力を発信(プロモーション)など

林野庁資料より引用

### 3 村上の森や木のことを世代を超えて伝えていく取り組みの実践

#### ④村上の家づくりの勉強会の企画・開催

- ・住宅建築は最も身近で多くの木材を利用するものであり、市産材を地域内で利用する上では重要です。
- ・市民や村上市近郊の住民を対象として、村上の家づくり勉強会を企画・開催し、市産材を用いた住宅建築の促進を図ります。



#### ⑤木に触れ合うことのできる 学習施設の整備

- ・森林や林業についての理解を深めてもらう取り組みのほかに、木についても理解を深めることが重要です。そのため、木に触れ合うことが出来る施設の整備を検討します。
- ・村上市には、森林空間の利用として「道玄池いこいの森森林公園」や「夕日の森森林公園」などの森林レクリエーションがありますが、設備の老朽化が進んでいます。これらについては随時補修を行っていく予定です。また、必要に応じてその他のレクリエーション施設を整備を検討します。

- 事例紹介  
オークヴィレッジ森の博物館（岐阜県）



「オークヴィレッジ森の博物館HP」より引用



### 3 村上の森や木のことを世代を超えて伝えていく取り組みの実践

#### ⑥市民向けの講演会やシンポジウム等を活用した普及啓発

- ・市民向けの講演会やシンポジウム等を活用した森林や木材に関する普及啓発を図ります。
- ・現在村上市で開催されている「岩船林業振興祭」や「いわふね森づくりセミナー」「森をはぐくむ 地域づくり講演会」等の既存の講演会等について、協力を行いながら活発化を目指します。



セミナーの開催状況  
(新潟北部地域林業振興協議会 提供)



岩船林業振興祭の開催状況  
(新潟北部地域林業振興協議会 提供)

## 4 森づくりから家づくりまで、村上の未来を担う人づくり

### (1)人材育成・担い手確保のための新たな事業展開検討

#### <現状と課題>

- ・ 林業に携わる人口が減少している状況である。
- ・ 技術の伝承や世代交換が出来ていない。
- ・ 新人の育成に時間がかかることが多く、時間をかけても退職するケースがある。
- ・ どの業界でも厳しいが、林業は特に厳しい。林業従事者が少なくなっている。

#### <具体的な取り組み>

- ① インターシップによる職業体験
- ② 村上の技術伝承講座・勉強会の企画・開催
- ③ 地域外の人材が地域の担い手となるように都市域に向けた情報発信・PR活動、都市住民のUJIターンを増やす取り組み

<取組実施者> 村上市、林業事業体、製材業者、工務店

### 林業及び木材産業就労者数

〈現状〉

林業：191人（H27年国勢調査より）

〈計画目標〉

林業○人（検討中）

## 4 森づくりから家づくりまで、村上の未来を担う人づくり

### ① インターンシップによる職業体験

- ・ 現在村上市では、「林業チャレンジ体験事業」が実施されています。また新潟県では、林業後継者の育成として、「林業体験講習（ウツジョブ）」「高性能林業機械研修」や「林業女性教室」に取り組んでいます。
- ・ 本計画では、これらの活動を継続するほか、各事業者が積極的にインターンシップによる職場体験を実施し、新規従事者の獲得を目指すことを支援することを検討します。

### ② 村上の技術伝承講座・勉強会の企画・開催

- ・ 村上市は、昔ながらの城下町という性質を持ち、木材を用いた伝統的な工芸品、情緒あふれる町屋の風景には「黒板塀」や「下見板」といった伝統的な木造建造物が見られます。
- ・ これらの伝統技術や高度な技術は、新規労働者の減少や需要の変化に伴い、技術伝承が途絶えてしまう可能性があることから、技術伝承を行う必要があります
- ・ 技術伝承講座・勉強会の企画・開催し、技術伝承を図りながら個々人の技術の向上を目指します。新潟大学や周辺地域の林業大学校と連携した勉強会等も企画し、他の地域との情報交換を行いながら、協力体制を構築します。

## 4 森づくりから家づくりまで、村上の未来を担う人づくり

### ③次世代を担う若手による新しい取り組みの実践

- ・村上市では、「林業関係次世代の集い」という地元の林業に関連する川上から川中までの企業が参画し、林業及び地域の振興を目指すため、意見交換を行い、市長に熱意や思いを伝える集いが開催されています。
- ・このような取り組みは、地域の林業を盛り上げ、新しい魅力にもつながり、担い手確保や地域経済の活性化にも大いに貢献すると考えられます。
- ・本計画では、このような若手が中心となって活動する集いを支援するほか、これらの情報を発信し、PRしていきます。また、異業種との関係の構築などにも積極的に取り組み、林業の新たな可能性を模索していきます。

#### ■事例紹介

「林業関係次世代の集い」は、令和3年3月までに3回開催されており、村上市の林業に関して、市長も交えたワークショップを行っています。若い世代が積極的に地域の林業振興を目指す姿であり、継続していくことが重要な事例です。

ワークショップの成果の一部

